

1. 幼稚園 教育目標

力いっぱい遊べる子ども

※からだの丈夫な子ども

※生き生きと遊びを工夫する子ども

※ものごとをやり通す子ども

※思いやりのある心豊かな子ども

2. 保育園 保育目標

- ・安定した生活リズムを体感し、心地よく過ごす姿
- ・身近な人や物へ興味、関心を持ち探索活動を十分の楽しむ姿
- ・遊びを通していろいろなおもしろさ楽しさに出会って行く姿
- ・のびのびと自分の気持ちを表現する姿

3. 文化学園が目指す教員の行動指針

～全ての子どもたちが主役であるために～

- ・子ども一人ひとりの表情や感情に温かく寄り添い、ありのままの姿を受け入れ公平に接する。
- ・保育者は、学園が目指す主体的な保育の実現のために、知識の習得と技術の研鑽に努める。
- ・誰に対しても平等に笑顔で挨拶し、思いやりのある気持ちが伴う行動をする。
- ・社会性を磨き、組織の一員として、礼儀・礼節を大切にする。

4. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を元に設定した学校評価の具体的な目標や計画

重点目標 ～ 子どもの気持ちに寄り添った保育をするために ～

- 子ども達の行動を深く見つけ、どのような気持ちであったのか推察しながら、適切な教員の関わり方について考えていく。
- 年齢による発達を理解し、知識を高め、子どもが主体的に取り組める活動について長期指導計画を基に考え、保育を進めていく。
- 「一人ひとりを大切にする」関わり方について、さまざまな保育の場面で教員としての関わりはどうだったか振り返りをしていく。

5. 評価項目の達成及び取組状況

行動指針について

取組状況	自己評価
子ども一人ひとりの表情や感情に温かく寄り添い、ありのままの姿を受け入れ公平に接する。	A
保育者は、学園が目指す主体的な保育の実現のため、知識の習得と技術の研鑽に努める。	B
誰に対しても平等に笑顔で挨拶し、思いやりのある気持ちが伴う行動をする。	A
社会性を磨き組織の一員として、礼儀・礼節を大切にする。	A

I 教育関係

(1) 計画力

評価項目	取組み状況	自己評価
①教育理念	園の教育理念や教育方針を理解し、共感しなから保育を進め、自分も明確な教育・保育観を持っている。	A
②全体的な計画	園の全体的な計画から、長期指導計画が作られていることを理解している。	B
③指導計画	長期指導計画からのつながりを意識し、短期指導計画を作成している。また、日々の保育の記録をとり、反省し次の短期指導計画に生かしている。	B
④重点目標	子ども達の行動を深く見つけ、どのような気持ちであったのか推察しながら、適切な教員の関わり方について考えていく	B
⑤評価反省	自分の保育と計画の評価反省を日々行うように努め、評価反省したことは、次の保育や計画に生かしている。	B

(2) 実践力

① 幼児理解	一人ひとりの幼児をよく理解するように心がけ、どんなことに興味を持っているかを把握しながら保育を進めている。	B
② 養護	教育、保育は「養護と教育」が一体となって行われることを理解し、一人ひとりの発達や実態を把握してその子にあった関わりをする。	A
③ 健康安全	朝の視診を大切にし、子どもの体調面に配慮し、適切な処置をしている、また、園で危険が予想される箇所を把握し、事故等の予防に努める。	A
④ 幼児対応	子ども一人ひとりの人格を尊重し、子どもにとって最も良い関わりは何かを常に考えている。また、子どもと共に活動し、共感しながら、満足感や心の安定を図っている。	B
⑤ 保育態度	子どもと同じ目線に立って物を見つめ、子どもの思いに寄り添おうとしている。また、子どもが主体的に活動できるような言葉かけや働きかけに努める。	A
⑥クラス運営	個々の子どもを大切にし、子ども同士もお互いを大切にする雰囲気がある。環境構成について、日常的に点検している。	A
⑦研修研究	研修会や研究会には自己課題を持って参加し、保育技術の習得に止まらず、幼児観や保育観の確立にも努める。	C
⑧資質向上	機会あるごとに教員・保育士として専門知識や技能を身に付けようと努力し、実践している。また、仕事の手順を考え、能率よく処理するよう努めている。	B

(3) 管理力

評価項目	取組み状況	自己評価
①保育管理	保育環境を安心かつ安全に活動できる空間にし、一日の保育の流れや自分の職務の流れをなど、時間管理を適切に行う。	B

II 素養関係

(1) 関係性

評価項目	取組み状況	自己評価
① 保護者	クラス便りや連絡帳を通して、子どもの様子を知らせながら保護者との信頼関係を築いていく。また、事故などが起きた場合の保護者への説明や対応を的確に行う。	A
② 地域社会	機会を捉えて地域の人々にこども園を理解してもらう努力をする。また、幼小連絡会等を通して、小学校との連携を密にしている。	B
③ 上司同僚	仕事をする上での適切な距離感を持ち、保育の向上に向けた職員同士のチームワークを築く。また、何でも相談できる雰囲気づくりをしていく。	A
④ その他	来園者や電話対応でも、丁寧な言葉で明るく対応している。また、職務上知り得た情報は守秘義務を果たしている。	A

(2) 適性

① 生活態度	服装・髪型・身だしなみなど清潔感のあるものを心がけ、挨拶などは、明るく親しみを込めている。また、園や教職員、保護者の批判は、軽はずみにしないようにしている。	A
② 向上心	どんな仕事でも楽しく、また前向きに行動する。また、不得手なことにも積極的に取り組もうとしている。	B
③ 情報活用	収集した情報を、保育に取り入れて活かしていく。また、幼児の個人情報を整理するとともに、情報保護には細心の注意をはらっている。	B

6. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合

結果	理由
B	<p>一人ひとりの発達や特性を把握し、よりよい関わりを考えながら、保育を進めている姿は評価できる。現職教育全体会の話し合いやテーマに沿ったレポート作成で学びの場を作ってきたが、研修や自己研鑽の評価が低かった。事前に自己課題をもって研修に参加できるような指導が不足していたと思う。</p> <p>次年度に向けて、教員として、知識の習得と自己研鑽に努めていくという意識を持てるようにしていきたい。</p>

「3.4」の評価の表示方法

A.十分達成されている B.達成されている C.取り組まれているが、成果が不十分 D. 取り組みが不十分

5.今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上	<p>子ども達の気持ちに寄り添う保育をするために、子どもの発達への理解を深め、一人ひとりを深く観ていく必要がある。</p> <p>子どもたちの成長を促すために、今どのような発達段階にいるのか、どのような関わりが必要なのかを明確にするためにも、知識を高め、より深く子どもを観る力をつけていかなければならない。そのためには、教員が自ら学ぼうとする意識が大切である。自己評価の結果を職員同士で共有し、改善策を考えていくことが、資質向上につながっていくと思われる。</p>
教育・保育活動	<p>子ども達が主体的にあそび、毎日充実した園生活を送ることができるように、教職員が子ども達にとって何が大切なのか、何を育てていくのかという視点にたって、自分の保育の見直しや振り返りをしていかなければならないと思われる。その為には、保育研究会の内容を検討し、より話し合いを深めていきたい。その中で課題点を洗い出し、それをどのように解決していくかを考え質の良い教育保育を提供していきたい。</p>